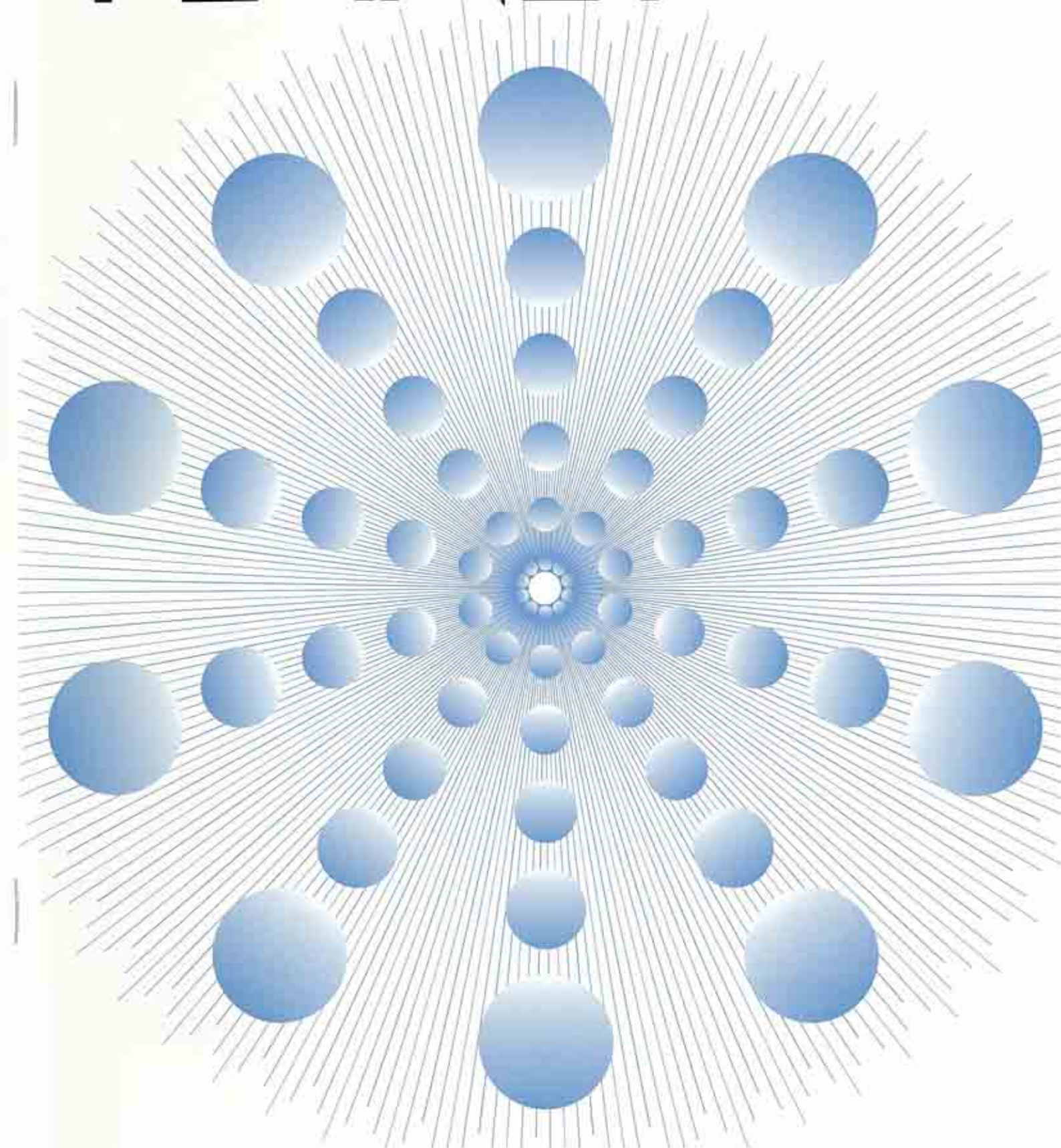


# PLANET

2007.7  
No.21



**ぷらねっと**

富山県プラスチック工業会  
(富山技術交流センター内)  
〒930-0866 富山市高田529番地  
TEL (076) 442-0309 FAX (076) 442-0310  
URL <http://www.kenpla.jp> E-mail [info@kenpla.jp](mailto:info@kenpla.jp)

富山県プラスチック工業会

## 第46回

# 通常総会開催



総会・斉藤副会長挨拶

### 総会審議

第46回通常総会は5月31日(木)午後3時30分から富山第一ホテルにおいて開催された。はじめに斉藤副会長より開会の挨拶のあと、斉藤副会長を議長に選出して議案審議に入った。

議案は第1号議案「平成18年度事業報告の件」

第2号議案「平成18年度収支決算報告・監査報告の件」

第3号議案「平成19年度事業計画(案)の件」

第4号議案「平成19年度収支予算(案)」

第5号議案「規約改定の件」

第6号議案「役員改選の件」を諮った結果、原案通り可決承認され、総会審議が終了した。

19年度事業計画ではプラスチック加工技術研究の先進化に向けて産学官連携、次代経営人材と技能人材育成事業の推進、会員企業研究開発改善事例発表会実施、ものづくりを通じた地域貢献、産学技術研究支援、退職金制度研究等を計画している。

### 記念講演

総会終了後、第2部として、前富山工業高等専門学校長の宮下尚氏より「省エネルギーと環境」と題して記念講演があり、人類と文化存続のため、地球環境の現状と新エネルギー等の取り組みの重要性について1時間余りにわたって講演があった。

### 懇親会

引き続き第3部として懇親会が開催され、はじめに斉藤副会長がプラスチック成形業を取り巻く環境の厳しさと業界の結束を呼びかけた開会挨拶のあと、昨秋、旭日双光章を授章した中西副会長に工業会から記念品贈呈があり、中西副会長より謝辞があった。

このあと、斉藤富山県商工労働部長が県内プラスチック業界の果たす役割に期待する祝辞と乾杯のあと歓談に移り宴は各円卓を囲み賑々しく相互親睦を深め合うなか、延澤副会長の中締めで盛会裡におひらきした。

## わが社のターニングポイント

太平株式会社 代表取締役社長 石崎直樹



当社の創業は、大正4年に郷土の生んだ偉大な政治家、松村謙三(と云っても、最近の新入社員は殆ど知らない)が早稲田大学の同窓の井口仁志(初代会長)と2人で製糸産業の衰退を憂い、郷土に新しい産業を興そうということでMY商会(松村、井口の頭文字)を起ちあげ木製玩具の製造を手掛けたのが始まりである。

その後、大正13年1月7日に資本金2万円で太平木工株式会社を設立し、本格的に事業を開始した。

京都美術工芸学校の教授である菊池左馬太郎(号素空)を招聘して図案を頼み、製品は東京、大阪の三越、高島屋など有名百貨店を中心に販売された。

昭和14年には、国内でも3番目と聞いているが、ベークライト(フェノール樹脂)製品の成形に取り組み、県下でも草分け的存在としてプラスチック産業に進出した。

その他、戦前には木製運動器やバット、撚糸用木管も手掛けた。戦時中には軍需工場の指定を受け、ライダーや戦闘機の補助タンクの製造を行った。

戦後は進駐軍用の家具やカードテーブル等、又、ラジオのキャビネットやコタツ板も生産した。昭和36年には食堂セットを中心とする木製家具の生産を開始し、袱台(ちゃぶだい)からテーブル、椅子へと住生活の変化に伴い大きく進展した。

合成樹脂部門では昭和29年に従来の人絹、ス

フ等の天然繊維に替わりナイロンが使われるようになりそれ迄の木管では強度が不足なので合成樹脂製ボビン(ベークボビン)が開発された。

昭和40年代の高度成長期には、木製家具もベークボビンも飛ぶように売れ、従業員数も46年のピーク時には550名を数え、48年には約4億円をかけて家具の新工場を建設し、正に我が世の春を謳歌していたといっても過言ではないだろう。

ところが、49年のオイル・ショックで大不況に落ち入り、以後、長く低迷状態が続くことになる。

平成15年4月に私が社長に就任し、直ちに不採算部門である木製部門の廃止を打ち出し、1年半後に完全撤退を致しました。

奇しくも、当社創立80周年という節目の年でありました。創立以来80年間、時代の変遷に伴い、事業内容の見直しを図りながら、歩んで参りましたが、木製品の80年にわたる歴史にピリオドを打ったことを、当社の最大のターニングポイントとして、今後は金型から成形、加工まで一貫して生産する総合プラスチックメーカーとして、特に当社独自の材料でありますタイカグライト(炭素繊維複合材料)、IT関連のFRP部材、スーパーエンブラを3本の柱として顧客のニーズに応えるべく、新製品の開発に注力し、時代の求める新しい価値を創造していきたいと考えております。



高陵プラスチック工業株式会社

〒933-0824 高岡市西藤平蔵字内川原1312  
TEL(0766)63-5656(代)  
FAX(0766)63-5658

**SAITO**

Plastics Molding / Package & Parts

株式会社 斉藤製作所

富山県富山市下大久保61 〒939-2251  
☎(076)468-2727 FAX(076)468-3911

## 超ものづくり企業への挑戦

株式会社スギノマシン 代表取締役社長 杉野 太加良氏



### 限界集落

皆さんは、「限界集落」というものをご存知でしょうか？ 変化のない時代の町あるいは村の集落では何ら支障はなかったのですが、ここ十数年来、集落が非常に変化をきたしています。つまり、65歳以上の人口が増えてきました。1つの町に65歳以上の人口が50%を超すと集落の崩壊が始まるといわれています。この現象が限界集落です。

また、社会のなりたちも（構造）もそれにマッチしていけばよいのですが、少し遅れてくると、加速度的に町が疲弊してきます。企業にも全く同じ状況が起き、それを称して「限界企業」といえます。企業が提供する商品は過去30年間で50%程度入れ代わらないといけません。つまり、新商品を5年から10年おきぐらい定期的に出していかなないとその企業はダメになります。この判断は金額でも量でもいいのです。

いつまでも栄光の時代を夢を見て、一種のノストラティックな考え方でいると、ジワッと知らない間にやってきます。そして、ハッと気が付いたときにはもう遅いということがよく散見されます。油断をしていると知らない間に疲労がついてくるということです。

### 正しい技術情報、マーケット情報、競合している会社の情報と企業の生死

そのときにどうすればいいのかというと、時代の変化を先取りする、時代の変化に敏感になることが非常に大事なのです。正しい技術情報、マーケット情報、競合している会社の情報をいち早く正確にキャッチして、それを自社に当てはめてみることです。

特に最近ではスピードが上がってきており、これは時間、距離、費用を見るとよくわかります。例えば、笠戸丸の時代にはブラジルへ行くのに、横浜からサントスまで四十数日間かかりましたが、今日では飛行機で24～25時間ほどで行けます。今は一旦遅れると、それを取り返すにはかなりの時間と費用と人数が必要になってきます。

いろんな状況をじっくり考えて「我々は何をなすべきか」経営者、或いは商品を担当している人もよく考えなければなりません。

そのようなものはたくさんあります。例えば、今はビデオデッキがあまり使われません。そのパーツを加工している樹脂や金属を使っていた企業はダメになりました。なぜかという、ビ

デオから次の世代に移ってきた、あるいは新しい映像技術が世の中に出てきたことに気が付かず、いつまでも同じものをつくっていたからです。あるとき、突然ではないのですが、あたかも突然のように売れなくなってしまうものがあります。また、皆さんはご存知ではないかもしれませんが、昔、タイガー計算機という手回し計算機がありました。しかし、電卓というものが出た途端、あっという間につぶれました。これも突然出たわけではなく、技術情報や商品情報を軽く見ていたのだと思います。自分のところは大丈夫だと、かつての栄光を頭の中に常に浮かべて安住をしていたということになるかと思えます。県内にもそのような会社があります。

### 危機に感じて楽観に勝負しろ

景気がおかしくなってくると、人間はどうしたらいいかなあと迷います。このときに悲壮感を持つと、知恵も何も出てきません。やはりその一歩手前の危機感を持たないといけません。もちろん銀行も将来展望がないときはお金を貸すことを惜しみます。従業員もこの会社はダメだと転職してしまいます。危機感を持ち、常に自社の状態はどうかということを建築していく必要があります。

「危機に感じて楽観に勝負しろ」という言葉があります。いつも危機ばかりではダメなので、時には楽観視してものを見ていくことも大事です。危機ばかりでは暗くなってしまいます。時には楽観して、その裏には常に危機感があるということ意識することがより大事かと思えます。

技術革新というものは、突然あるように思いますが、実際はゆっくり進んでいます。ゆっく

りですが、止まることはなく進み続けているのです。このことをうまくとらえることが非常に大事だと思います。

例えば電池などはふんだんに使っていたのですがここへきて非常に節約して使わなければいけないということで、そこにまた、新しい技術が生まれる可能性があるわけです。

そのようなものをいち早くキャッチすることが主要であり、これの乗り遅れると企業は衰退していきます。

### 一葉落ちて天下の秋を知る

現在、全国には中小企業が430万社ほどあります。統計年度によっても多少異なりますが、全企業の98.5%～99.0%になります。そのような会社が大きな企業の裾野に広がっており、これが日本の企業を支えているといっても過言ではありません。したがって、中小企業にはがんばっていただかないと、日本の産業は成り立たないということです。

今、日本から多くの企業が中国、インド、ベトナム、タイなどに進出していますが、生産がなかなかうまくいきません。不良品が出たり、納期に間に合わないなど、うまくいかない理由は日本のように中小企業が裾野にないからです。一部にはあっても日本のように非常に洗練された技量、技能を持つ人たちがいないということで、思うようにいかないのです。それを設備に変えていこうとやっていますが、なかなかうまくいかないということです。幸い日本の場合は、中小企業が長年培った高度な加工技術、生産開発技術、品質向上のための技術などが非常によくできており、これが日本の産業を支えています。

**三光合成株式会社**  
SANKO GOSEI LTD.

〒939-1698 富山県南砺市土生新1200  
1200 HABUSHIN NANTO CITY TOYAMA 939-1698 JAPAN  
TEL 0763-52-1000 FAX 0763-52-1925  
http://www.sankogosei.co.jp/

**JYOTO**

トータルサインシステム

**株式会社 城 東**

代表取締役 奥野 忠正

本社 〒934-0042 富山県射水市作道591 Tel.0766-84-2030  
東京営業所 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2丁目1番 Tel.03-3863-8530

**TAKAGISEIKO**

革新を続けるプラスチック創造企業

**株式会社 タカギセイコー**

代表取締役社長 羽場 光明

本社/富山県高岡市二塚322-3 ☎(0766)24-5522代



**TOYOKAKO**

優れた技術と確かな品質でお応えします。

**東洋化工株式会社**

取締役社長 中田 守人

〒936-0857 滑川市下梅沢1350番地  
TEL.(076)475-2125 FAX(076)475-9471

これからの企業は時代の変化を先取りする、あるいは時代の変化に敏感になることが非常に大事です。例えて言うなら、「一葉落ちて天下の秋を知る」という言葉で、これには「もう秋だなあ」ということと、「どうもおかしいぞ、なにか変わってきたぞ」というような2つの意味があります。私は後者の考えで、している仕事が最近どうもおかしい、値引きが激しい、数量が伸びないというようなときは何か新しいものが生まれた、競争会社がでてくる、そのようなものがいらなくなってくる、まったく異質の企業が違うものを出してきたなどということ早く察知することが大切だと思います。早く手を打つには情報をよく知っておくことです。ここも工業技術情報の収集センターだと思いますが、そのようなニュースを県内の企業にどんどん伝達していかないと、富山県というより日本のすべての企業が衰退していくと思います。

#### 第4世代の加工の時代は技術複合の世代

私は以前から新聞などで、「現在は第4世代の加工」ということを書いたりするのですが、二千数百年前の石器時代から人力加工がはじまり、鉄器時代になると鉄、さらに超合金がでてきます。今日では非常に新しい時代にも突入してきました。「学際」という言葉がありますが、いろいろな技術が融合されたひとつ形となって、昇華して商品ができるということです。例えば、電子と電気、ケミカルと電気、薬品と機械などの組み合わせが非常に増えてきています。ひとつの技術だけを開発しているのではダメなのです。いろんなものをコンバインして、ハイブリット化されたものが出てきます。これもひとつ時代の流れ、

技術の流れであり、キャッチアップしなければいけません。まさに第4世代は技術複合の世代だということを考えていただきたいと思います。

#### 「超」挑戦の時代へ

また、一方では「超」の時代でもあります。超小型、超高速、超寿命、超精密、この「超」とはウルトラ、スーパーという意味の「超」です。自分の会社の持てる技術で、どのような「超」ができるのかを、よく考えて企業のあり方というものを推進し、考案していくことが必要です。クリエイターとして創造していくことが大事です。そのためにはいろいろ革新していくことです。これはよくイノベーションと言いますが、これはそのようなところにあるわけです。「イノベーションとは何ですか?」と聞いても、「さあ」というような人がいますが、改善よりも改革です。技術は改革の時代だと言われています。これに遅れるといくら大きな設備を持っていても、何にもなりません。そのような時代がこれからの世代だと考えています。既存の技術に安住することなく、常に新しいものに挑戦していくことがとても大事な時代になってくると思います。

以上私の考えを述べさせていただきました。

本稿は平成19年2月10日(土)開催の  
当会次代経営研究会講演を抄録した  
もの。  
於：富山技術交流センター

## 新たな局面を迎えた 大連の外資誘致の流れ

富山県大連事務所副所長 田中雄一氏



金型工場が多く入居している工業団地の一角

#### ■ 欧米企業の新規投資、第3次産業分野の投資

従来、大連の外資誘致(不動産投資除く)における日系製造業のプレゼンスは相当大きいものがありました。しかし最近の動きとして欧米製造業が大連に投資する動きがにわかに目立つようになってきました。最も象徴的なものでは米国のインテルが大連で300ミリウェハーの生産工場を投資総額25億米ドルで年内起工し、2010年には大連開発区で生産開始するというニュースでした。ドイツやフランスの経済界との交流も盛んになっており、製造業分野でも外資誘致の動きは転機を迎えたのかもしれない。

また製造業のみならず第3次産業分野への外資導入にも力が入れられており、大連から旅順に向かう途中の地域を「大連ソフトウェアパーク」と銘打って大規模開発を行っています。既にIBMやGE等欧米企業や日系大手企業もソフトウェア開発拠点としてやサービスセンター(コールセンター)等として活用している他、今後は地場の大学等からの優秀な人材をあてにしたR&Dセンター的な利用も増加していく筈です。更に大連には商品先物取引所があり、金融機関の誘致にも積極的になっています。風光明媚な海岸線に近い大連は中国大陸の旅行者やロシア等の外国人にとっては人気の観光地でもあり、観光産業の振興も重要となっています。

#### ■ 大連経済技術開発区と郊外の開発区

国家級開発区として位置づけられる大連経済技術開発区には多くの日系企業が進出済みであり、

プラスチック成形や金型企業も多く見受けられます。しかしながら、最近では土地が不足気味であり、環境汚染型の企業は当然ですが、付加価値が余り高くない工場と判断されれば、有利な条件で進出するのが困難になっています。ただし、金型に関していえば開発区内に金型工業団地を設けて育成に取り組んでおり、比較的有利に進出可能な筈です。大連での金型需要の多くは依然輸入に頼っており、電子製品や自動車といった成長分野の裾野産業として大連市政府は金型企業の誘致を重視しています。また大連にある大学・専門学校のうち7校に金型専攻科目が設置され、毎年数百名の卒業生を送り出しているそうです。

大連開発区の土地不足が外資誘致のネックになるなか、大連市は金州区や長興島や庄河といったより郊外で工業団地の開発に取り組んでいます。高速道路網が急速に整備されつつあり、今後の企業進出ではより郊外の開発区を検討すべきかと存じます。

#### ■ 人民元の上昇と労賃等コスト上昇

人民元は米ドルに対し着実に上昇していますが、当面この動きは継続する可能性もあります。また日本円自体が米ドルに対し下落する状況では中国生産での各種コスト(労賃等)上昇と相俟ってFSの際には最悪の事態もシュミレートした上で企業進出を検討すべき時代にはなっている気がします。(なお、本稿では為替相場を断定的に予想するものではないことをご承知お願います。)

富山県富山市  
TOYOX 株式会社トヨックス

〒938-8585 富山県黒部市前沢4371  
TEL 0765-52-3131 FAX 0765-52-4245  
http://www.toyox.co.jp

阪神化成工業株式会社

〒939-8183 富山県富山市小中163番地  
TEL (076) 429-1865代  
FAX (076) 429-6042  
URL http://www.hansin.co.jp/

学校関係でのいじめによる痛ましい事例がある度に新聞・テレビでの報道で、教育委員会や学校関係者は問題事例の初期段階では、いじめの行動としての認識がなかったとか、いじめそのものがないなどの発言が多いように感じられるが、本当にそうであったのかとの疑問はコラム子だけではないであろう。

現状調査・現状認識

品質管理で言う3現主義（現場・現状・現物）による現状調査・現状認識がどのように行なわれたのであろうかの疑問が浮かぶのである。その時僅かな異常に気がつく閃きのような研ぎ澄まされたいじめについての感性および責任感があれば、事態は別の展開となったのかもしれないとつくづく思うものである。また刑事もののテレビ放映でも実績が多い犯罪捜査のベテラン

刑事は、物証を積み重ねながらの捜査とともに、刑事の勘による

閃きが問題解決に結びつき、権限は大きいが捜査能力の低い組織上位者の鼻をあかすという痛快さを狙うものもよくあるが、刑事の閃きは豊富な事例に支えられての高い捜査能力によるものと思うのである。このような事例を見ていると直ぐに成形不良対策などに結びつけ、ものづくりでも同じあると感ずるのである。現状認識ができれば対策に移つらなければならない。

船頭多くして舟、山に登る

成形不良対策でも議論のみで“船頭多くして舟山に登る”の喩えのように問題の解決に至らない例は枚挙に暇がない。その不良現象に対する理論やその企業・現場で構築された定量的原則（技術標準）に基づく対策方針の説明が説得力に欠ければ、技術レベルの低い決定権限のある責任者は決断を下すことが出来ないとも言えるのかもしれない。あるいは改善提案の排反事象や変更点管理でも、何か問題になることはないのかを思いつくことが出来るのは高い技術レベルによる閃きによることが多い。人はこれを

勘による対策とも言うが、勘は理論と豊富な経験によって生まれるものである。毎日同じことが繰り返されている現場で、勘の働かない現場人は役に立たない。

閃きのわかった事例

ポリアセタールによる平ギヤ・ピニオンギヤが1対となっている成形品のピニオンギヤの1枚の歯欠けが海外の組み立て工程で組み立て前に2個発見された。また組み立てられたものの性能テストで2個の組み立て品で複数枚の歯欠けが発生した。組み立て前の歯欠けは離型時か輸送時に発生した確率が大きいと判断されるが、この樹脂の正常なものではその工程でそんなに簡単に破損するものではないと考えられる。量産成形品を観察したところ通常では考えられないようなウエルドがピニオンギヤの端面に複数

入っていたし、歯元にウエルドがかかっている歯もあった。破

損原因はこれだと閃いたが、成形条件表を見るとシリンダ温度設定が異常に低い（樹脂温度は不明）・保圧時間が短く金型温度が高いなどからゲートシールしているとは思われないなど成形条件設定は少なくとも守らなければならない条件を満たしていないものだった。考えるにキャビティ製作時の成形収縮率の推定に誤りがあり、寸法が公差はずれにならないようにすることに注意しての成形条件設定で、ギヤ歯元強さには配慮が回らなかったものと推定される。問題はこのような正常条件から大きく外れているQC工程表を作った技術担当者の技術レベルにもあるが、長年この樹脂の成形をしている現場責任者が何の疑問も持たずに受け入れたことも驚きなのである。また承認のサインをした責任者も複数部門に亘るのである。誰も何も閃めなかったのであろうか。このまま量産を続けていると破損不良率が增大する危険を孕んでいるのである。

（記事提供：プラスチックニュース社）

閃きの力(思いつきの力)

産学連携・技術研究取り組み意向アンケート

・アンケート期日 平成19年5月  
・対象60社 回答30社 回答率50%

各会員企業の半数が共同研究に取り組んでおり、企業規模に関係なく新技術開発意欲は高い。技術委員会ではアンケート結果を今後の取り組みへの参考としていきます。以下はアンケート結果の一部抜粋です。

共同開発研究取り組み状況について

共同開発研究取り組み先	取組み会員企業	取組み件数
産学での開発取り組み中及び予定あり	11社	1件～4件
顧客とのみ共同開発取り組み中	6社	1件～4件
原料メーカーや機械装置メーカーとのみ取り組み中	8社	1件～4件
民間シンクタンクや専門企業とのみ取り組み中	3社	1件

県内プラ業界の基盤強化のため、当会が共通事業化テーマに取り組むことに共感・賛同する。 <共感・賛同する 20社>

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1. とやまブランドづくり研究        | 2. 新素材（ニーズ先取り）の開発    |
| 3. 廃プラ再利用              | 4. ポリ乳酸等バイオプラ材の製品化支援 |
| 5. 原料面で安定供給            | 6. 物流面での研究関連機器開発     |
| 7. テーマ選定は慎重に           | 8. 工業会自身にメリットが出れば良い  |
| 9. 雇用期待やその成果を利用したい     | 10. 中長期的な研究開発テーマ     |
| 11. 仕事量の増大や違う分野の受注に繋がる | 12. 市場開拓、技術交流、環境対策   |

以下はアンケートを寄せられた各社のご意見、ご希望を記載したものです。

当会が共同研究開発に取り組む場合、どのようなテーマを期待するか

- |                                   |                       |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. 金型技術                           | 2. 生分解樹脂              |
| 3. 材料金型マッチング技術                    | 4. ナノ材料利用技術、材料リサイクル利用 |
| 5. 押し出し成形技能認定化実現へ                 | 6. 成形工場の生産管理ソフトの共同開発  |
| 7. 自動車関係企業を誘致する                   | 8. 各企業に属さないベンチャー的テーマ  |
| 9. 最先端技術に絡めるテーマ                   |                       |
| 10. 会員企業の付加価値向上に資するテーマ（成形加工+組立て等） |                       |

## 新潟県下視察見聞録

三晶MEC株式会社  
取締役開発室長  
渋谷 忠盛氏

4月20日、21日の両日にわたり、新潟県内企業・公営機関の視察に参加した。知見を広めることと会員の親睦を深めることが目的である。

プラスチック工業会加入企業の殆どは、セットメーカーの一次、二次或いは三次下請けとしてその系列に組み込まれているケースが大半であり、経営方針のみならず、技術面でもメーカーに左右されることが多く、基盤となるものが弱い。昨今の景気回復で多忙を極める中、将来を見据えながら何を考えどう実践しているのか、また現状での強みと弱みが何なのか見聞してきた。それぞれの概要と特色を述べる。

### 【松下電工 新潟工場】

セグメントとして、電材（照明）・電器・住設・電子材料・制御・その他があり、売上高1兆6800億円、経常利益900億円と、今なお右肩上がりの優良企業である。

新潟工場は、コアビジネスの施設照明器具・屋外照明器具・電子ブロック・車載関連電子ユニットと多岐にわたる電材製造を行っている。人員約600名、生産高約200億円の陣容である。縮小する照明市場にあって経営資源の効率化、低コスト化、コア技術・コアコンピタンスの育成等で生き残りを図っている。カンバン方式や徹底した自動化からセル方式までの自在な組立分別化等、生産革新と在庫削減に目を見張るものがあり、最速最安のモノづくりに取り組んでいる。また、ラインは自前であり技術の囲い込みにも余念がない。

### 【ニイガタマシンテクノ】

会社更生法で旧新潟鉄工より分離した工作機・成形機メーカーで、売上高130億円、利益6億1000万円、人員200名余りの構成である。工作機として



松下電工 新潟工場

は、重切削・高精度・高速化を迫及した種々のマシニングセンターを製造している。今後もコア機能である「削ること」の精度を中心として、多機能化・複合化・多軸化とより効率を求める方向に進展しよう。現状では国内景気回復による需要増しと、欧州、アジア諸国への輸出が好調で、高い稼働率を維持している。また、成形機は総てが電動機であり、個別には導光板等のオプトエレクトロ関連に注目している。工作機、産業機械を問わず、ブランドの構築や自社技術の囲い込み、需要への柔軟な対応と高品質製品の生産、高付加価値部門への特化等々が他企業からの突出につながると思われる。

### 【県中央地域地場産業振興センター】

地域企業のモノづくり振興策として、県・市が商品技術開発やデザイン開発、人材育成、情報交流を支援するだけでなく、全国に向け地元企業やその製品を広く紹介している。開発から流通までの一連体制を築くことで「刃物の三条」の知名度をより高めることとなっている。

### 【中小企業大学校 三条校】

大学校としては全国9校のうちの一つである。実践的研修の場を通して、活力ある中小企業の育成を目指している。北陸・上越の受講者が多いようであり繁盛している。

簡単ではあるがこれを訪問の記としたい。他を見ることで自分自身を省み、また新たな挑戦へつながると感じた。

末筆ではあるが今回の視察を立案計画下さった幹事に感謝申し上げる。



ニイガタマシンテクノ 本社工場

三光合成株式会社  
T&E社 副社長  
高木 保氏

## 次代経営研究会

はじめに

まず、この次代経営研究会の発足について、説明させていただきます。この会は、昨年12月に富山県プラスチック工業会会員企業の幹部社員らが研究生として研修、実践を行い、自身の経営資質向上を目指すことを目的として発足しました。だいたい月1回の割合で土曜日を開催日と決め、研修しております。今回で、はや6回目の開催となり、前期の締めくくりとなりました。

今回の研究会での工場見学は、会員企業で非常に元気のある株式会社富山技研様に御願いをして実現いたしました。株式会社富山技研様の絶大なるご尽力とご支援を頂き開催できたことをまずは感謝申し上げます。

### 第6回研究会（6月7日）

研究会のスケジュールは

#### 第1部 経営講座「ものづくり人材育成」

講師 中小企業診断士 羽田野 正博 様

#### 第2部 工場見学 株式会社 富山技研様

となり、総勢22名の出席で開催されました。

現地集合時間9時半のところ、私は9時前に着いてしまいましたが、早く着いたにもかかわらず、富山技研の社員の方々の方が事務所の前で暖かく出迎えてくださり、非常に気持ちよく訪問することができました。また、今回の研究会開催にあたり、事前にレジメの準備までして頂き、有り難いご配慮に厚く御礼申し上げます。

第1部は、人材の育て方について羽田野講師にご講義いただきました。話の始めに「企業とは」、(企)てるは経営者が未来を作っていく、(業)務は仕事で、お客様の満足を得ることであると説明を受けました。まさしく環境の変化に順応していかないと、また変わっていかないと生き残れないということです。その為にも意欲を持った人材を少しでも多く増やすことが大事であると感じました。

第2部に入り、通常ですとまず会社概要の説明を受けてから工場見学となるのですが、今回は「まず工場を見てください、何を作っているか見た上で説明をしたほうが良いのでは」というご配慮から最初に工場見学となりました。人数が多い為、村上専務、扇制常務、岡本製造部長の3グループに分かれて案内していただきました。

金型製作部門は、1日の温度差を小さくして高精

度加工を実現するために、工場の壁から廊下を隔てて作業する環境が整っておりました。また、金型の大きさは小さいですが、受注から試作まで1ヶ月以内を実施する、金型製作から隣室にある試作機での試作検証まで、一連の流れで実施できるようになっており、技術は社内で蓄積するという社長の強い思いが感じられました。

プレス部門では、プレス加工機が全部で103台あり、メンテで止まっている機械は除いてほぼ全ての機械が稼働していました。また、機械台数に対して人が少なく、かなりの自動化が進んでいるように思いました。機械横での検査は全てカメラで実施しており、人はほとんどメンテか品物の集荷をしているように感じました。

どの業界も同じかもしれませんが、簡単なプレス品は中国に流れてしまっており、ある程度の付加価値をつけたものでないと日本には残りません。それでも、安いものは単価数銭からということで、かなりの改善をしていかないと儲けにはつながっていきません。日々改善の努力を怠らず業務にまい進されているのだろうと推測致しました。

工場見学を終えた後、質疑応答に入りましたが、営業の人員はという質問に対し現在は1名、以前は特別にいない、営業しなくても仕事やってくるということであり、技術の高さが伺えました。また福地社長は経営トップというものは、強いリーダーシップのもと、方針を明確にして進んでいかなければならないとあり、社長が36年前に独立し、ここまで大きくされた自信というものが感じられました。参加された企業の方々には、高い生産性や社長の経営理念に感銘を受け、大きな収穫を持ち帰ることが出来たのではないかと思います。



株式会社富山技研 正面玄関前にて

## 優良従業員表彰式開催

富山県プラスチック工業会優良従業員表彰式が5月9日(水)、富山第一ホテルで開催され、会員企業社員22名が表彰された。誠にありがとうございました。

表彰式では齊藤副会長より永年に渡る貢献へのねぎらいと今後の活躍への激励挨拶のあと、来賓を代表して富山県新世紀産業機構 宮本孝専務理事よりお祝いの言葉とプラスチック業界が県産業界に果たす役割と発展を期待する祝辞があった。

表彰式終了後、健康講演会が開催され、延澤副会長から開会挨拶の後、富山市民病院院長の泉院長による「がん治療最前線」の演題で1時間にわたり講演があり熱心に聴講した。



延澤副会長より表彰式授与

### 特別表彰

氏名	企業名
渋谷 巽	技能検定員永年貢献 高陵プラスチック工業株
渡辺 秀夫	「とやまの名匠」認定 三光合成株

### 優良従業員表彰受表彰者

氏名	企業名
谷川 寿	株富山技研
森口 幸子	〃
黒崎 ふじ子	株城 東
稲垣 保夫	株確井製作所
加藤 康子	五栄化学工業株
山田 昌巨	三光合成株
上牧 金蔵	〃
谷井 敏子	小林製薬ブラックス株
金山 昭雄	株トヨックス
籠屋 隆之	〃
久々湊 世里子	株大 樹
松井 明男	滑川プラスチック工業株
笠村 哲夫	トナミ精工株
笹井 栄司郎	株リッチェル
東堂 孝博	〃
山内 敦	株タカギセイコー
福田 昌宏	〃
川辺 幹翁	三協化成株
社内 康司	〃
山本 幸子	株齊藤製作所

## 懇親ボウリング大会 結果

平成19年7月1日(日) クアトロブーム小杉

(参加企業 17社 参加人数 130名)

### 団体の部 (1チーム5名 計10ゲーム)

	チーム名	企業名
優勝	タカギセイコー水見	株タカギセイコー 水見工場
準優勝	シロウマ ニューGirl	シロウマサイエンス株
3位	チームOK	高陵プラスチック工業株
4位	team N	三光合成株
5位	チームミュキ	ミュキ化成株



団体の部 優勝

### 個人の部 (2ゲーム)

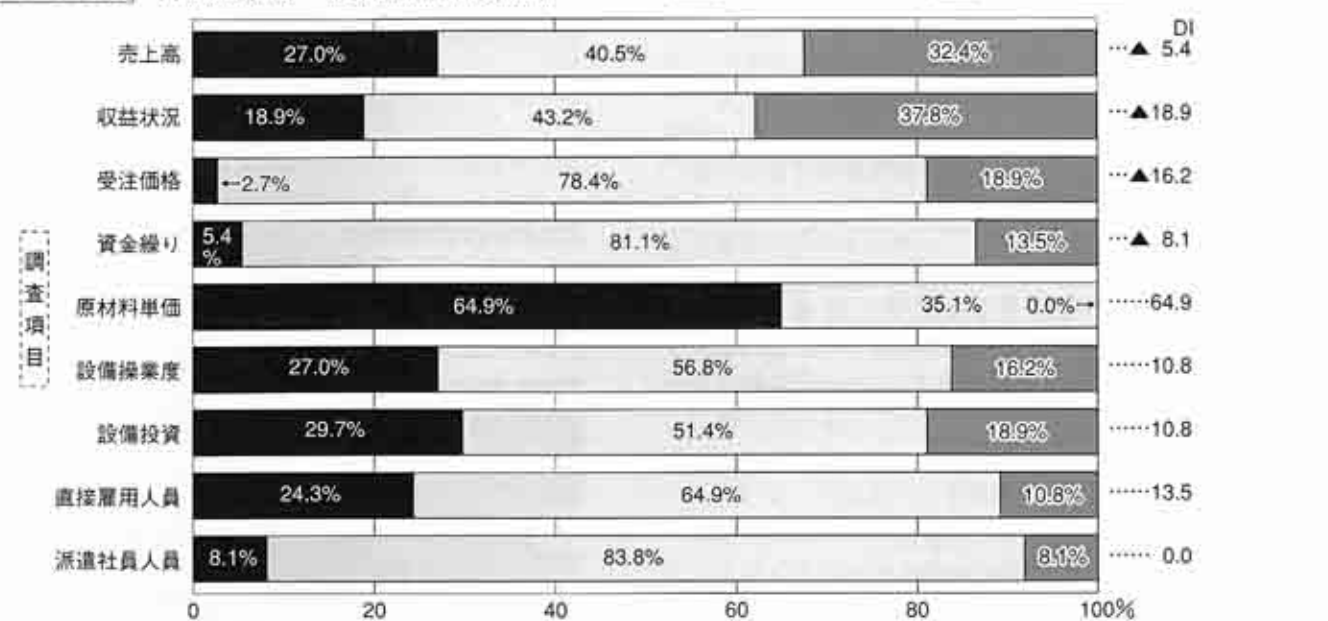
	チーム名	企業名
優勝	能登 美紀子	シロウマサイエンス株
準優勝	海老 彰	株タカギセイコー 水見工場
3位	安土 智暁	株沢電工株 富山工場
4位	河原 美雪	株タカギセイコー 水見工場
5位	表 陽子	株タカギセイコー 水見工場



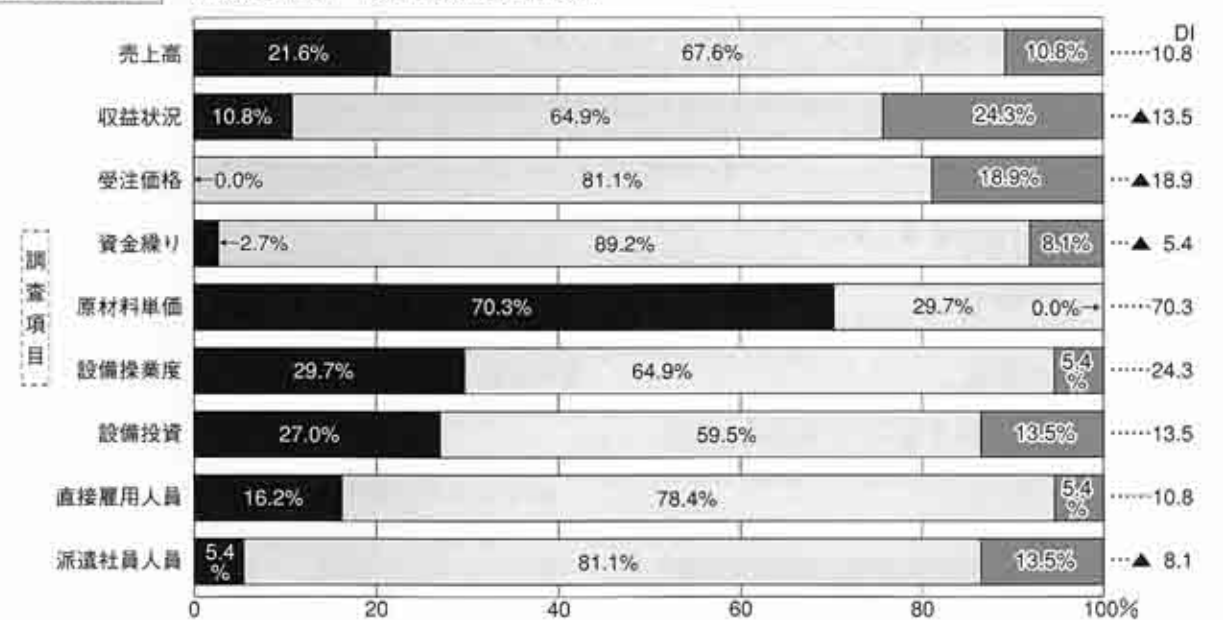
個人の部 優勝

調査：当会会員企業66社中48社回答

### 最近の実績 (平成19年1月～19年6月/前年同期比)



### 今後の見込み (平成19年7月～19年12月/前年同期比)



### 経営上の問題点

- |              |       |                |       |           |       |
|--------------|-------|----------------|-------|-----------|-------|
| 1. 受注量の減少    | 12.0% | 4. 技能・技術者不足    | 13.0% | 7. 収益減少   | 15.2% |
| 2. 受注単価の切り下げ | 4.4%  | 5. 設備投資遅れ      | 4.4%  | 8. 社員教育不足 | 8.7%  |
| 3. 原材料高騰     | 31.5% | 6. 新商品・新技術開発遅れ | 6.5%  | 9. 資金調達面  | 4.4%  |

### コメント

売り上げは最近、やや減少気味も今後はやや増加を見込む傾向。操業度は好転傾向。設備投資や雇用は増加傾向。収益状況は最近減少傾向、今後は変わらないとする傾向と、更に減少する傾向とがあり、まちまちである。原料価格はほとんど各社、高騰している。受注価格は最近、更に低下傾向、今後については上昇は期待できないものの落ち着き見込みである。経営上の問題点では原材料高騰は依然、業界全体に収益圧迫要因である一方、受注価格の低下傾向は前回調査より少ない傾向。全体的に問題点のぼらつきが目立っている。顧客ニーズが業種により多様化していることも考えられ、今後の業界事業内容に反映していきたい。

4 月度

レベルアップ研修会

と き：平成 19 年 4 月 10 日～27 日

ところ：ポリテクセンター富山

初心者向け射出成形・金型・電気制御を参加企業 11 社 38 名が研修しました。

県外優良企業見学会

と き：平成 19 年 4 月 20 日～21 日

ところ：松下電器新潟工場他

参加者 18 名にて「工場内見える化」、「製造原価低減化」等学ぶ。

押出成形小委員会

と き：平成 19 年 4 月 3 日

ところ：とやま技術交流センター

押出成形技能検定内容について審議。

押出成形研究会

と き：平成 19 年 4 月 23 日

ところ：とやま技術交流センター

押出成形技能検定実施計画（案）について審議。

次代経営研究会

と き：平成 19 年 4 月 14 日

ところ：とやま技術交流センター

「事業 IT 化と経営改革」講演と「経営分析」講座にて学ぶ。

ホームページ全面リニューアル

産学連携先、会報、能力開発セミナー及び当会開催事業、協力事業を都度、トップページに掲載化運営。



理事会

5 月度

副会長会議・理事会・優良従業員表彰・健康管理講演会

と き：平成 19 年 5 月 9 日

ところ：富山第一ホテル

内容は会報記事をご参照下さい。

射出成形実技講習会

と き：平成 19 年 5 月 21 日～6 月 28 日

ところ：ポリテクセンター富山

128 名の参加にて 32 日間にわたって実施。



実技講習

次代経営研究会

と き：平成 19 年 5 月 12 日

ところ：とやま技術交流センター

斉藤副会長より「これからの中小企業」講演と「経営戦略」講座にて学ぶ。

6 月度

会報編集委員会&総務委員会

と き：平成 19 年 6 月 5 日

ところ：富山技術交流センター

19 年度夏号会報の編集方針、内容審議  
総務委員会では退職金制度研究会、経営セミナー開催内容について審議。

次代経営研究会

と き：平成 19 年 6 月 7 日

ところ：富山技研本社工場

「これからの中小企業」講演と「経営戦略」講座にて学ぶ。

技術委員会

と き：平成 19 年 6 月 29 日

ところ：富山技術交流センター

産学連携アンケート結果説明と今後の取り組みについて審議及び下期事業説明。

共創

「スポーツで富山を元気に」

企業スポーツは昭和初期から導入されはじめ、昭和の終わりごろまでは盛んに活動されてきました。しかしバブル崩壊後「不況のためのリストラ」というような理由で、企業スポーツは多くの休廃部により衰退の一途をたどっています。

企業スポーツを導入する目的としては、広告宣伝効果、労務対策、福利厚生、教育訓練などが挙げられますが、大企業では経営の合理化の波の中、コスト対効果が厳しく査定され、休廃部やクラブチームへの移行が続出しているのが現状です。

県内においても、2000 年富山国体を終えた後、一部を除いてほとんどの会社が「企業スポーツのリストラ」を断行したのが現状です。

そこで近年、企業スポーツに代わる型式で誕生してきたのが「地域密着型スポーツ」です。典型的なのはサッカーの Jリーグが挙げられますが、最近では県内でもプロバスケットボールbjリーグに「富山グラウジーズ」が誕生したり、野球では北信越BCリーグに「富山サンダーバース」が誕生するなど活発な動きがあります。どちらも地元企業に出資や協賛を募って、県民球団と位置づ

け、地域活性化を唱え、「スポーツを通じて富山を元気にする」ことに一役を担おうとしています。また、アマチュアスポーツではバレーボールの「黒部アクアフェアリーズ」がクラブチームの型式で地域密着チームとして活躍しています。

当工業会の羽場会長も地域活性化に色々と貢献しておられますが、いずれも「富山を元気に」という気持ちからではないでしょうか。

しかし、富山県民は奥床しいといいますが、おとなしいといいますが、ひとつになって燃え上がるということが苦手のようです。新潟では Jリーグの新潟アルビレックスの試合になると毎試合 4 万人前後の観客がスタジアムに押しかけるそうです。また、NPB では日本ハムファイターズがフランチャイズを北海道に移すと、北海道がひとつになって日本ハムを応援するようになりました。

富山県民ももう少し見習って、ひとつになって盛り上がってはどうでしょうか。それが延いては会社の中でも、家庭の団楽を通じて「元気」につながっていくと思いませんか？

総務委員会副委員長 喜多 進

プ/ラ/ス/チ/ック/は/お/も/し/ろ/い

今年バークライト樹脂が誕生して 100 年になる節目の年ですが現在では鉄の消費量と肩を並べる（容積比）までの産業に成長し、人類の文化生活に欠かせない素材となりました。先般、テレビ番組サイエンスチャンネル「プラスチックはおもしろい」を見て、改めてプラスチックは 21 世紀も伸びる可能性を感じましたので紹介します。

☆プラスチックはビルを作る

コンクリート支柱などにポリプロピレン繊維液を混合して地震、火災等時の柱や建材の破壊防止やビルの軽量化に役立ち、今後の需要拡大が期待されている。

☆プラスチックは水を吸う

高吸水性ポリマーに水を入れると水がゼリー状に変化し、紙オムツでお馴染みですが今後も材料の進化で健康、環境、農業、防災分野などに期待されている。

☆プラスチックは電気を通す

プラスチックは本来、絶縁性ですが、導電性プラスチックの開発により、携帯電話、楽器や床ずれマット、防犯マットなどに使用され、今後も工業製品や防災・安全・健康分野などにプラスチックの特性と導電性を生かして無限の可能性を秘めています。

☆プラスチックは腐る

生分解樹脂（トウモロコシ等のポリ乳酸が原料）と呼ばれ、廃棄されても土中バクテリアにより、腐食することや原料生産時に炭素ガス発生が少ないことから環境負荷を下げる樹脂としても産業界から期待され、産学連携等で用途研究開発が進んでいます。

編集後記

【編集委員会】

総務委員長 高野 修次  
（株）リッチェル

副委員長 門前 昌志  
（阪神化成工業株）

◇ 喜多 進  
（株）大樹

◇ 松本 哲保  
（株）確井製作所

◇ 西村 源信  
（三光合成株）

未来への限りない挑戦

プラスチックの総合メーカー



ミユキ化成株式会社

代表取締役社長 延 澤 泰 明

〒939-0351 富山県射水市戸破針原53-14  
TEL(0766)56-9500/FAX(0766)56-9495  
URL: http://www.miyuki-kasei.co.jp/



暮らしに笑顔を咲かせます。

株式会社リッチェル

富山県水橋桜木136 〒939-0592  
TEL(076)478-2250 http://www.richell.co.jp/

プラスチック家庭用品・美容用品・ペット用品・ベビー用品・工業用品・環境用品・介護用品・エクステリア用品・工業用品・マイクロチップ・ソーラー製品等の製造販売

（広告に、企業名のアイヌキで掲載しています）